

【協賛】 株式会社タウンズ キリンホールディングス株式会社 サノフィ株式会社

当番世話人：福岡 哲哉（静岡済生会総合病院）

話題提供

---

### 酪酸菌（宮入菌）の特徴と最近の話題

ミヤリサン製薬株式会社 医専事業部 東京 3 課  
前田 知慧

一般演題 《座長》 荘司 貴代 (静岡県立こども病院)

## 重度の呼吸障害を呈した PVL 陽性 MSSA による新生児膿胸の一例

聖隷浜松病院 新生児科  
土手 友梨

在胎 36 週 2 日、体重 2724g で出生した男児。母体感染症なし。新生児呼吸窮迫症候群 (Respiratory distress syndrome; RDS) のため日齢 0、2 にサーファクタントを投与したが日齢 4 には抜管した。日齢 6 に肺炎の診断で再挿管し、日齢 7 に左膿胸、DIC、ショックとなり当院転院となった。転院時には FiO<sub>2</sub> 1.0 で SpO<sub>2</sub> 90%程度であり、換気に PIP 40 を要する重度の呼吸障害を認めた。抗菌薬投与、人工呼吸器管理、左胸腔ドレナージ、DIC に対する支持的治療をおこない、徐々に呼吸・全身状態は改善した。日齢 27 に抜管し、日齢 49 に退院した。表皮、咽頭、便、痰、胸水の培養からは MSSA が同定された。急速進行で死亡率も高いと報告がある Pantan-Valentine leukocidin (PVL) 陽性黄色ブドウ球菌性肺炎を想定して PCR 法による解析をおこなったところ、PVL 陽性 MSSA と判明した。重篤な経過を呈する黄色ブドウ球菌感染症の際には、PVL 陽性株である可能性を考慮する必要がある。

## NICU、GCU における MRSA の発生率と対策

静岡県立こども病院 新生児科  
児玉 洋平

<背景>

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) は、NICU において問題となっている病原体である。近年、MRSA の保菌が少なくなっている施設もあるが当院は依然 MRSA 対応に難渋している。今回 MRSA 発生率や対策法について検討をする。

<方法>

2017 年 1 月から 2021 年 12 月の NICU に入院した児に対して MRSA 新規保菌者数の MRSA 発生密度、年度別保菌率推移を調べ、その期間に行った対策について検討した。

<結果>

MRSA 発生密度は 2017~2018 年増加傾向であったが、2019~2021 年は低下傾向であり、年度別保菌率推移も徐々に減少傾向である。

2018 年以降アルコール消毒薬個人携帯により 1 患者あたりの遵守回数が増え、対策として院外入院の先制的接触感染予防策、教育強化、環境整備、他施設の見学を行った。

また、期間中の MRSA による菌血症はあるが MRSA による死亡率の増加はなかった。

<結語>

MRSA 保菌が減少傾向でも状況により増加する可能性があるため、対策は継続して行うことが必要である。

## 電話診療によりフォロー（静岡市方式）した COVID-19 の乳児感染者の病状

静岡厚生病院 小児科  
田中 敏博

静岡市では、2020 年 8 月の段階で、小児の COVID-19 の患者が発生しても入院を前提とせず、原則として自宅または宿泊施設療養とすることを申し合わせた。これに際して、静岡市保健所との連携の下、主治医を置いて初回は対面診療、以後は電話診療によりフォローをしていく取り組み、静岡市方式を開始した。2021 年 11 月末現在、静岡市内では累計で 5823 名の患者が発生、うち 15 歳以下かつ中学生以下の小児は 543 名で、0 歳の乳児は 35 名であった。このうち 12 名を当科が担当した。

COVID-19 は未知のウイルス感染症として対応が開始され、予防・診断・治療の各領域でわずか 2 年の間に顕著な進歩のあるにもかかわらず、いまだに当初の”恐ろしい感染症”のままの位置づけにある。一般的な感染症においてハイリスクとして位置づけられることの多い乳児における COVID-19 の病状を分析し、共有する。

教育講演 《座長》 塩田 勉 (静岡済生会総合病院)

## 正しく恐れよう、コロナ禍における周産期管理

浜松医療センター 周産期・メディカルバースセンター 副センター長  
芹沢 麻里子

2019 年 12 月に中国の湖北省武漢で原因不明の肺炎が流行し、2020 年 1 月 9 日、肺炎の原因が新型コロナウイルス SARS-CoV-2 (COVID-19) と判明した。2020 年 1 月 16 日に初めて日本で感染が確認され、以後国内外での流行は早く 2020 年 3 月 11 日に WHO はパンデミック宣言を行った。当院では 2020 年 2 月、COVID-19 陽性となったダイヤモンドクルーズ船の乗客患者が入院した以後、持続的に患者を受け入れてきた。COVID-19 感染による妊婦や胎児への影響が不明の中で、2020 年 4 月 8 日に COVID-19 感染妊婦 (妊娠 18 週) の 1 例目を経験した。感染妊婦に対する知識や準備も不十分のまま、当院の感染症内科医と相談しながら対応した。1 年 9 ヶ月が経過した 2021 年 12 月現在、23 名の COVID-19 陽性妊婦の入院 (うち 1 名帝王切開分娩) と 2 名の外来診察、濃厚接触者 1 名の経膈分娩を経験した。35-39 週の陽性妊婦の場合、いつ陣痛発来するかとひやひやししながら 2 週間を過ごしたこともあった。2021 年 3 月以後、スタッフのワクチン接種は進み、妊婦へのワクチン接種も加速し、周産期を取り巻く対応も変化してきた。COVID-19 の感染経路は飛沫感染であること、原則空気感染はしないことなどを踏まえ、かつ多くの陽性妊婦に対応することで、日常業務の中でどのように COVID-19 陽性妊婦の対応を行ってきたか、当院での経験を述べたい。

【略歴】 芹沢 麻里子 (静岡県三島市 生まれ)

### ■ 学歴 ■

1987 静岡県立韮山高等学校 卒業  
1993 福井医科大学 (現、福井大学) 卒業  
1993 浜松医科大学 産婦人科学講座 入局  
1994 聖隷三方原病院 産婦人科  
1997 浜松医療センター 新生児科  
2000 浜松医療センター 産婦人科

### ■ 資格 ■

日本産科婦人科学会 専門医 指導医  
母体保護法 指定医  
日本周産期・新生児医学会 (母体・胎児) 専門医 代表指導医 評議員  
日本女性医学会 女性ヘルスケア 暫定指導医  
日本超音波学会 専門医・指導医  
産婦人科新生児血液学会 評議員  
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース (A コース) インストラクター  
JCIMELS (日本母体救命システム普及協議会)  
ベーシックコース・アドバンスコース インストラクター・コースディレクター  
ALSO (周産期医療支援機構) インストラクター  
女性ヘルスケアアドバイザー  
小児周産期リエゾン  
浜松医科大学臨床教授

## 周産期・新生児感染症へのアプローチ

浜松医科大学 小児科学講座 教授

宮入 烈

周産期・新生児期の感染症診療は、先天感染症、新生児における感染症、NICU における感染症の 3 つのカテゴリーに大別される。先天感染症は主として胎内で病原体に曝露した結果生じるものである。低出生体重、肝炎、血小板減少など非特異的な所見から疑い、サイトメガロウイルス、トキソプラズマ、風疹ウイルスなど主だった原因微生物に特有の所見を探索しながら、診断と治療に結びつける。新生児敗血症は、出生時に産道あるいは出生後に曝露を受けた病原体により感染が成立する疾患である。原因微生物には GBS や大腸菌、単純ヘルペスウイルスなどがあり、新生児敗血症として full sepsis workup と経験的治療を基本とした診療の手順が確立している。NICU における感染症は医療曝露を背景とし、カテーテル関連血流感染症や人工呼吸器関連肺炎などに代表される感染症のマネージメントからなる。MRSA などの耐性菌が問題となるのもこのカテゴリーであり、治療薬の選択のみならず、院内の感染管理の強化に重点が置かれる。本講演ではこれら 3 つのカテゴリーに対する診療アプローチを概説する。

【略 歴】 宮入 烈

■ 学 歴 ■

1995. 3 慶應義塾大学医学部 卒業  
2013. 1 慶應義塾大学医学部医学研究科 博士課程 修了 (小児科学学位 取得)

■ 職 歴 ■

1995. 5 慶應義塾大学医学部小児科学 研修医  
1999. 7 慶應義塾大学医学部小児科 助手  
2000. 7 米国 Long Island College Hospital/Beth Israel Medical Center 小児科レジデント  
2003. 7 米国 St Jude Children's Research Hospital/ LeBonheur Children's Hospital  
小児感染症フェロー  
2008. 7 米国 University of Tennessee Health Science Center 小児科・微生物学免疫学生化学科 アシスタントプロフェッサー  
2011. 8 国立成育医療研究センター 感染症科 医長/感染防御対策室 室長  
2018. 6 国立成育医療研究センター 感染症科 診療部長/感染制御部 統括部長  
2021. 6 浜松医科大学医学部医学科小児科学講座 教授

■ 資 格 ■

- 2000 日本小児科学会認定医 (専門医)  
2004 米国小児科学会認定医  
2008 米国小児感染症学会認定医  
2012 日本感染症学会専門医  
2013 インфекションコントロールドクター (ICD)  
2017 日本感染症学会指導医  
2017 日本小児感染症学会暫定指導医  
2020 日本小児科学会指導医

■ 委員会等 ■

- 2014 日本小児科学会予防接種・感染対策委員会 (2020~ オブザーバー)  
2015 日本感染症学会 評議員  
2015 日本救急医学会委員会 感染対策検討 WG 委員  
2016 内閣官房 薬剤耐性 (AMR) 対策推進国民啓発会議 構成員  
2017 Journal of Infection and Chemotherapy 編集委員  
2019 日本化学療法学会 評議員  
2020 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 委員  
2020 日本小児科学会雑誌 編集委員長  
2021 日本小児科学会専門医制度委員会 副委員長  
2021 日本小児感染症学会評議員  
2021 日本小児科学会代議員